

東京農工大学農学部動物医療センターの施設整備

岩崎利郎[†]（東京農工大学動物医療センター長）



1 整備に至る経過

家畜病院は獣医学教育には欠かせない実習施設であり、通常は獣医学科（学部）との緊密な連携のもとに、臨床教育あるいは教員の研究ならびに獣医師会など地域社会に二次診療施設としてきわめて重要な役割を果たしていることは

周知である。国立大学が法人化されるまでは、このような概念のもとに文部科学省に家畜病院の重要性を訴え続け、老朽化あるいは狭隘化した病院の増築あるいは改築を毎年のように概算要求してきたのは、どの国立大学も同様であると思うが、法人化された後は概算要求によって家畜病院を増築、改築するということが不可能と思える状況になっていた。

東京農工大学では法人化後に大学本部が獣医学教育を積極的に支援するという立場から、自己資金による家畜病院の増改築を目指してきた。法人化後に東京農工大学が資金を調達して建物を建てるには①大学の余剰資金を充てる、②民間との共同投資あるいは運営による（Private Finance Initiative (PFI)）、③銀行などからの借入金によるの3方策が考えられた。①は当時、全学的な理解が得られず、②は規模の点からもPFIの案件として適切ではないと判断された。③の借入金による整備は法律上、医学部付属病院などには認められているものの、家畜病院が採用するには法令改正が必要であった。平成17年当時の家畜病院長は外科の山根義久教授が務めておられ、病院長と大学本部との間で緊密なやり取りがあり、法令改正を前提に借入金による家畜病院を増改築することが一度は現実的になった。しかし、改正の手続きが遅延し、大学本部の人事なども関連して一度は計画が頓挫しかけたように見えた。しかし、大学側から文部科学省に再度働きかけ、再度法改正を願うことになった。その後、文部科学省関係各課の尽力により、平成17年12月に国立大学法人法施行令の一部改正がなされ、国立大学法人における長期借入金の対象範囲が拡大し、家畜病院にも借入金による整備が認められるようになった。これを受けて平成18年5月に、懸案となっていた農学部全体の協力体制を得るべく「家畜病院増改修推進

委員会」を設置することが農学部長の指示で決定した。この時点で、借入金による家畜病院の増改築という路線は道筋が付けられたわけであるが、山根教授が病院長を交代され、岩崎が後を引き継いだ。

このような過程を経て家畜病院の建設は進んだが、増築予定敷地内にあった牛舎、ヤギ舎などの移転先に関して農学部「家畜病院建設推進委員会」で学部内の合意が得られ、建設への大きなはずみとなった。

増築資金すなわち借入金の額は大枠で文部科学省との間である程度の合意があったが、建物の設計はある程度は病院側の裁量に任された。病院側では建物のコンセプトを「使いやすい」、「緑の中の病院」として、設計をいくつかの建築設計事務所に依頼し、民間会社が行っているようないわゆるコンペで決定しようと試みた。病院側では本部と調整しながら基本設計および内装が決定され、旧病院の改装費を含む建物の予算が4億4千万円、設備費が1億1千万と見積もられた。この整備費用5億5千万の長期借入金の借入について、平成19年4月に文部科学省の認可をいただき、国立大学法人第1号となる民間金融機関からの借入による家畜病院の増改修整備が実現した。新制度による国立大学初の民間からの資金調達という話題性から、認可された日の新聞の1面に紹介されている。

2 センターの概要

家畜病院は増改築とともに名称を「動物医療センター」と改称した。概要を述べると延べ床面積は総2階建ての1,500m²であり、旧病院の約1,200m²を加えると2,700m²となった。機能的には1階部分は外来および検査部門が入り、7つの診察室、薬剤室、臨床検査室、CTおよびMRIが配置され、2階部分には3つの手術室および入院設備が配置されたが、新病院には研究室などの居住空間はいれなかった。旧病院には事務室、X線室、超音波検査室、手術室1室ならびに大動物診察室が残った。

新病院の会計システムはファイルメーカーを基本にした既成のものを用いて電子化した。電子カルテ化は実用上のデメリットもあるということで採用を見送った。各患者の画像データはDICOMを会計システムから呼び込むことで、血液・血液化学検査データ同様に簡単に飼い主に見せることができ、診断と飼い主説明に威力を発揮している。

[†] 連絡責任者：岩崎利郎（東京農工大学動物医療センター）

〒183-8509 府中市幸町3-5-8 ☎042-367-5785 FAX 042-367-5784 E-mail : bpag218@cc.tuat.ac.jp



図1 動物診療センター外観



図3 診療風景



図2 7つの診療室



図4 手術室

東京農工大学動物医療センターは旧病院のころから完全予約制で紹介制を採用しており、新病院でも同様なシステムを執っている。専門科による診療担当は曜日によって異なり、月曜日は臨床繁殖科・腫瘍科、火曜日は神経・眼科、水曜日は皮膚科・耳科、木曜日は腫瘍科、そして金曜日は循環器科である。診療体制ならびに病院内

部の詳細については当動物医療センターのウェブサイト (<http://www.tuat-amc.org>) をご覧いただきたい。